

さんの方々からいただいたアイデアを少しずつカタチにしていけたら、有田川町が「日本一住みたいまち」になる日は遠くないと思います。

## このまちをもっともっと好きになってもらいたい

小澤守史（みかん農家）

はじめて耳にした時、なんか「オモロイこと」が始まりそうな気持ちの高ぶりを感じました。

東京から戻って来て15年、ただひたむきにミカンに向き合う生活をしてきた僕に、大きな刺激が舞い込んで来ました。「カッコ良くて、稼げて、感動がある」ある農家が言い放った、これからの「農家3K」だそうです。飛び込んできたこの言葉で、地方創生というなんや重たい課題にもかかわらず、「一緒に有田川町を盛り上げて行きたいですね!」と言っている僕がいました（笑）

今ではこれからの若い人たちに、僕ら大人が楽しく暮らしている姿を見てもらい、このまちのええところ、ええもの、ええことをもっと創っていききたい、何よりこのまちをもっともっと好きになってもらいたい、こんな活動ができればええなと思うようになりました。

## 町民の1人として「まちを創る」

楠部睦美（自営業）

私は9年間有田川町から離れていましたが、今年春にUターン（地方から都市部へ移住し、再び地方の生まれ故郷に戻る）してきました。

自然豊かで、人情味あふれる町；そんな地元が漠然と好きだなという気持ちがありました。が、「まちの未来を本気で考えてみよう」とか「町政に参加しよう」とは思ったことはありませんでしたし、自身ができることではないと思っていました。

しかし、今回のワークショップに参加して、同じように地元を思う方々と意見を交わすことで、町民の1人として「まちを創る」取り組みに携わることができるんだと実感しました。



## 自分たちのまちを自分たちの手で創る

### 素敵な取り組み

野村聖子（主婦）

私は最初、有田川町が消滅するかもしれない自治体の一つだということと聞き、ショックが大きかったです。

ですが、田殿保育所のワークショップに参加したことで、まちづくりに関わりたいという思いが湧き出たり、このように町民同士が関わり合ったりすることは、とても魅力的だと感じました。

自分たちのまちを自分たちの手で創る素敵な取り組みなので、いろんな人がもっと参加できる場となれば良いと思います。また、住民主体で楽しみながら活動し、移住したくなるまちになっていけば良いと思います。



「地方創生」は決して難しいものではありません。あなたが「暮らして楽しい」まちにしたいと思う気持ちが大切です。

誰にでもできることはあるはず。散歩のときにすれ違う人にあいさつしたり、町外や県外にいる友達に有田川町の話をしたり、思い切ってお店を出してみたり。あなたも小さなことから始めませんか？

「暮らして楽しい」まちを目指す有田川町は、あなたの参加をお待ちしています。

### ◆有田川という未来

特設サイト

<http://aridagawa2040.org/>

### ◆有田川という未来

情報発信フェイスブック

<https://www.facebook.com/groups/aridagawa2040.info/>

### ◆「有田川町まち・ひと・しごと

創生総合戦略」「有田川町人口ビジョン」は有田川町公式ホームページに掲載しています。

◆地方創生に関する問い合わせは企画財政課まで。